

「まちづくり」はなぜ？ 景観計画 5

「大磯駅前洋館と鴨立庵を景観重要建造物に指定しました！」編

シリーズ「ご存じですか？景観計画」も、今回で最終回となりました。今回は、大磯景観資産と景観重要建造物についてご紹介し、これらを生かした景観まちづくりについて考えます。

【大磯景観資産とは…】

大磯景観資産とは、町の景観を特徴づけている自然、里山、農地、人工物、史跡、行事、眺望点等のうち、特に重要なものを登録する町独自の制度で、景観重要建造物等の指定候補となるものです。

【景観重要建造物とは…】

景観重要建造物とは、景観法に定められた制度で、大磯景観資産のうち、良好な景観の形成に重要な建造物で、大磯町の成り立ちを象徴するシンボルやランドマークになっている建造物を町長が指定します。

町は、昨年9月に「大磯駅前洋館(旧木下家別邸及び新館並びに敷地)」を、邸園文化や近代のまちづくりを伝える建造物であるとして、第1号の景観重要

建造物に指定しました。



▲景観重要建造物第1号に指定された大磯駅前洋館

また、今年1月に「鴨立庵とその敷地」を、地域の生活、文化、故事、伝承にまつわる建造物であるとして、第2号の景観重要建造物に指定しました。



▲景観重要建造物第2号に指定された鴨立庵

【景観資産等の景観資源を生かしたまちづくり】

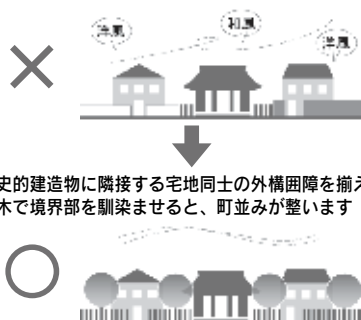
景観資産等は、町の景観を特徴づけているものです。町民の

みなさんのご理解とご協力をいただくことで、特徴を生かした街並みを形づくることができます。

例えば、これらの資源を生かすため、景観資産等に隣接している場所では、景観資産等との間にゆとり(空地や緑地)を保ち、景観資産の価値を引き立てるよう配慮したり、景観資産に併設する施設は、景観資産の魅力を引き立たせるデザインにすれば、お互いが引き立ちます。また、外構囲障を調和させることで沿道の景観が演出できます。

(左図参照)

外構囲障がバラバラで、緑がない町並みはチグハグな印象を与え、歴史的建造物や史跡が引き立ちません



歴史的建造物に隣接する宅地同士の外構囲障を揃え、樹木で境界部を馴染ませると、町並みが整います

町では、今後も町内にある数々の景観資源を大磯景観資産や景観重要建造物に登録・指定し、保全活用して行きたいと考えております。

景観資源を生かしたまちづくりを一緒に進めていきましょう。

◎問い合わせ

都市計画課 ☎内線221

シリーズ連載⑩ 大磯景観応援団

「大磯そごろ歩き」

城山公園前交差点で、国道1号を折れ、直進すると、本郷橋から中丸の旧街道になります。本郷橋は、それ以前の土橋が、昭和2年に鉄筋コンクリート造りのアーチ状の道路橋に架け替えられました。欄干、親柱など重厚な構造が目を引き、平成2年に「かながわの橋一〇〇選」に選ばれています。

夕闇が迫る頃、親柱に明かりが灯ると、時代を巻き戻したような錯覚に陥る景色が浮かび上がります。

中丸は江戸時代は国府本郷村。新編相模国風土記稿によれば、「古は中丸村として一村落をな



▲東の大磯宿(西の山西村まで一里と風土記にあり、ほぼ中間に位置した)

せしが、何の頃よりか、村内の小名となれり」とあり、「民古一一四」と記されています。



▲本郷橋

今もそうですが、街道に沿って家々が東西に広がり、ちょうど中丸会館辺りに「江戸より十七里」の塚があったそうです。左右一対で、榎が植えられていたと言います。

中丸会館から200メートルほど西の松林のなかに、その存在を伝える記念碑があります。平成14年に開かれた東海道シンポジウム大磯大会の時、建てられました。

歩けば、十分ほどで通り抜けられる何の変哲もない旧道ですが、生垣と旧家が点在する風情のある街並みが続きます。

▼場所 中丸旧街道

(景観応援団・行武)

◎問い合わせ

都市計画課 ☎内線221